



TITLE:

東洋史研究 第七十五巻總目次

AUTHOR(S):

CITATION:

東洋史研究 第七十五巻總目次. 東洋史研究 2017, 75(4)

ISSUE DATE:

2017-03-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/250731>

RIGHT:

自第一號（平成二十八年六月）
至第四號（平成二十九年三月）

東洋史研究

第七十五卷

總目次

東洋史研究會

論 說

秦代遷陵縣志初稿——里耶秦簡より見た秦の占領支配と駐屯軍——	宮宅 潔	一	(一)
漢代列侯の起源………	杉村 伸二	一	(三)
范陽の盧氏について——盧植・盧毓と漢魏交代期の政治・文化——	高橋 康浩	一	(六)
高句麗遺民と新羅——七世紀後半の東アジア情勢——	井上 直樹	一	(九)
中央アジア・オアシスにおける政治権力と隊商交易——清朝征服前後のカシユガリアを事例に——	小沼 孝博	一	(四〇)
唐後半期の地方監察——出使郎官・御史と巡院、憲衛保持者——	小野木 聰	二	(二〇五)
朝鮮時代の火器………	山本 進	二	(二四)
義和團事件前夜のキリスト教會………	蒲 豊彦	二	(四四)
ザンギー朝ヌール・アッディーン政權における有力アミールの配置と移動………	柳谷あゆみ	二	(三七九)
『集史』の傳承と受容の歴史——モンゴル史から世界史へ——	大塚 修	二	(三四七)
代北と中原——北朝の史學と正統觀——	田中 一輝	三	(四五)
唐代中國におけるソグド人の佛教「改宗」をめぐる………	中田 美繪	三	(四八)
大定和議期における金・南宋間の國書について………	毛利 英介	三	(四五)
『丈量保簿』と『歸戸親供冊』から——萬曆年間、徽州府休寧縣二七都五圖の事產所有狀況——	伊藤 正彦	三	(五三)
ミッシヨン史料からみる珠江デルタ支流域の地域社會………	土肥 步	三	(五五)
張家山漢簡「奏讞書」と嶽麓書院藏秦簡「爲獄等狀四種」の形成過程………	水間 大輔	四	(六七)
甄琛から見る北魏という時代………	池田 恭哉	四	(六七)

唐代前期における蕃將の形態と北衙禁軍の推移……………林 美希 四 (七三)

歐洲戦争と科學振興のジレンマ——中國における第一次世界大戰報道とその思想的影響——……………小野寺史郎 四 (七四五)

書 評

小林伸二著『春秋時代の軍事と外交』……………水野 卓 一 (一三七)

田中秀樹著『朱子學の時代——治者の〈主體〉形成の思想——』……………土田健次郎 一 (一四六)

スーザン・マン著（小濱正子、リンダ・グロープ監譯、秋山洋子、板橋曉子、大橋史恵譯）

『性からよむ中國史——男女隔離・纏足・同性愛——』……………高嶋 航 一 (一五)

夫馬 進著『朝鮮燕行使と朝鮮通信使』……………高橋 博巳 二 (一七三)

小池 求著『20世紀初頭の清朝とドイツ——多元的國際環境下の雙方向性——』……………淺田 進史 二 (一九)

鷹取祐司著『秦漢官文書の基礎的研究』……………青木 俊介 三 (一五三)

川本芳昭著『東アジア古代における諸民族と國家』……………堀内 淳一 三 (一五九)

藤原崇人著『契丹佛教史の研究』……………古松 崇志 三 (一六一)

佐藤信彌著『西周期における祭祀儀禮の研究』……………松井 嘉徳 四 (一七八)

高村武幸著『秦漢簡牘史料研究』……………柿沼 陽平 四 (一七三)

森安孝夫著『東西ウイグルと中央ユーラシア』……………森部 豊 四 (一七七)

太田 出著『中國近世の罪と罰——犯罪・警察・監獄の社會史——』……………高遠 拓兒 四 (一八三)

一 (一六三)	二 (三〇三)	三 (六三〇)	四 (八三五)
---------	---------	---------	---------

大會抄錄

國境を跨ぐ「會黨」——十九世紀ベトナムの鑛山・商業鎮と華人祕密結社——	望月 直人	三 (六四)
「斬蛇劍」の創出とその背景	目黒 杏子	三 (六四)
秦統一前後の「邦」と畿内	渡邊 英幸	三 (六五)
ロシア宗主權下ブハラのアラン人——とくにその法的・社會的地位について——	木村 暁	三 (六五)
カーデリーの町アンカラ、サラエヴォ		
——十八世紀オスマン朝地方社會における權力基盤の一つとしての裁判官職——	秋葉 淳	三 (六六)
元代江南士人にとつての「中國」	櫻井 智美	三 (六七)
東ユーラシアにおける出土錢の研究	三宅 俊彦	三 (六七)
清末の「海權」と張謇——中國における領海主權概念の登場——	太田 出	三 (六八)
東アジアの天下と天朝の諸相	檀上 寛	三 (六八)